

大機小機

財政支出の拡大をめぐり、自民党ではMMT（現代貨幣理論）を背景に積極的な「財政政策検討本部」と慎重な「財政健全化推進本部」の対立が注目されている。岸田文雄総理は所信表明演説で、「危機に対する必要な財政支出は躊躇（ちゅうちよ）なく」行うと述べた。財政制度等審議会は建議でケインズのアニマルスピリットを引き合いに、過度な財政支出は民間企業の活力をそぐとの見解を表明している。

財政拡大がそぐ経済の活力

のは財政拡大が不況からの回復をもたらすというものが、同時に経済成長をもたらさないことも教えている。それを聞いた人がケインズに、では何が経済成長をもたらすのかと聞いたことへの答えがアニマルスピリットだった。

ケインズ政策の財政拡大が経済成長をもたらさないことから、不況でない時の財政拡大は経済のバブル状況をもたらすという帰結が出てくる。現在、多くの企業が過去最高益を記録し不況とはいえない。とすると現下の財政拡大はバブル状況をもたらす。バブルは必ずはじける。財政拡大で持ち上げられた景気は、その効果が切れたところで落ち込む。それを避けようと財政拡大を追加発動しても、効果が切れれば同じこと。何回繰り返しても、成長率は高まらずに財政赤字だけが累積していくことになる。そのメカニズムがわが国の失われた30年の基本的な姿だったのだ。それは経済政策と言いながら経済成長をもたらさなかったという意味で、バラマキ政策を繰り返した姿だったといえよう。

アニマルスピリットとは、人々がよりよい生活の実現に向けてチャレンジしていくことだ。それは所信表明演説で総理が述べた、国の礎は「人」だということにも通じる。今必要なのは、新型コロナウイルスへの危機対応に加えて国民のアニマルスピリットを喚起する政策だ。そこを押しえずに財政支出の拡大ばかりを求めているのは、失われた30年が続き、日本はアジアの中でも貧しい国になっていってしまう。既に平均賃金で韓国にも抜かれているのだ。

（唯識）